

平成24年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会

日時 平成25年3月22日（金）14:00～17:00
場所 県立人と自然の博物館 大セミナー室

1 開 会

2 挨 拶

岩槻館長

3 議 事

(1) 報告事項

博物館の活動について

田中次長

平成24年度の活動状況について

高橋部長

(20周年記念事業)

JST「ネットワーク形成先進的科学館連携推進型」

事業について

古谷キッズひとはく推進室長

(2) 施設見学

ひとはく多様性フロアについて

橋本生涯学習推進室長

「ゆめはく」について

石田地域展開推進室長

(3) 質疑・意見

- ・ 委員 人博の入館者数（他施設）の増加はすばらしいが、増加の理由は何か。
- ・ 博物館 2年ほど前から道の駅、淡路ハイウェイオアシスに出かけて活動しており、人が集まる場所を開拓して活動しているため。
- ・ 委員 人が来るのを待つだけでなく、来ない所にはこちらから出かけて行くことが大切。移動博物館のプラス面とマイナス面を教えてほしい。
- ・ 博物館 プラス面は、単に物を見せるだけでなく、来てくれる人と直接話して知識を伝え、次の人を呼ぶのに繋げていくことができること。
マイナス面は労力がかかること。
- ・ 委員 恐竜発掘調査が来年度から方向性が変わると聞いているがどのように変わるのか。
- ・ 博物館 クリーニング作業、資料整理に集中し、今後の発掘調査については、今後内部で十分検討して行く。（決して発掘調査そのものを中止するわけではない。）
- ・ 委員 共生のひろばでの発表団体、内容を教えてほしい。
- ・ 博物館 団体、市民サークル、学生、学校のクラブなどが、身近な生物の観察の事例、石ころ、岩石の紹介、環境美化など町の問題点を発表している。
- ・ 博物館 大切なのはその発表が文書として残り、冊子となることである。

- ・ 委員 移動博物館車には研究員が直接乗っていくのか。
- ・ 博物館 研究員が自ら運転し、直接行って説明している。
- ・ 委員 常設展示においては、作品を単に並べるのではなく、その作品を通して見る人にいろいろその先を想像させたり考えさせたりすることが重要。又、インタープリテーションの工夫はどのようにしているのか。
- ・ 博物館 展示説明等のためのスキルアップは研究員自身も行っているが、数年前から地域研究員、ボランティアの連携活動グループなど、多様な説明ができるパートナーの育成に努めている。
- ・ 委員 ジャンルを解りやすく編集し説明するように、ソフト面を充実する機能を持たせることが大切。
- ・ 委員 移動博物館車「ゆめはく」の来年度の予約状況はどうか、
- ・ 博物館 現在、約20件の予約が入っている。
- ・ 委員 現在で、もう20件の予約は多いが、移動博物館車「ゆめはく」のアピールのため広報活動が大切。
- ・
- ・ 博物館 移動博物館車「ゆめはく」は3月26日と27日に東北地方へ行くことになるが、その際にサンテレビが同行取材することになっている。
- ・ 委員 実物の化石等をを移動博物館車「ゆめはく」に積んで持ち出すことはないのか。
- ・ 博物館 レプリカは持ち出すが、丹波恐竜化石発掘調査で発掘した化石などの貴重なものは現物は持ち出さない。
- ・ 委員 20周年を迎えて当初の目標設定は計画どおり実行できましたか。
- ・ 博物館 計画行為は順調に進んできた。20周年を踏まえての人博の将来構想を含め、これから先21年目を以降良い形で推移していくと考えている。
- ・ 委員 山陰海岸国立公園が来年度50周年を迎えるが、人博として協力の予定はあるのか。
- ・ 博物館 ジオパークキャラバンとして5回以上の出動を予定している。
- ・ 委員 常設展示のリニューアルの予定はあるか。
- ・ 博物館 少しずつ、リサイクルを重ね、新館構想も踏まえて実施することを計画している。
- ・ 委員 多様性フロアはどのように使用されているのか。

